

モデルコース

Aコース

ビズル・高港→東の御嶽→高津嘉山→ノロ殿内→
殿(津嘉山・玉那覇・仲間)→高倉→弾痕のある堀

【所要時間 2時間】

Bコース

キーチキの御嶽→クニンドー遺跡→イチの御嶽
→フボの御嶽→山垣橋

【所要時間 2時間】

津嘉山綱曳き由来譚

津嘉山村に勤勉な村頭がいた。いつも村民の幸せを考えていたが、或る年害虫が異常に発生し、稲作物をはじめ農作物が不作になり、村民はひどく苦しんだ。村頭はなにかよい考えはないものかと考えめぐんだところ、ふとアムトゥシチャ(姥捨山)に捨てた老父を思いだし、早速姥捨山に駆けて息たえだえの老父にそのことを伝え、よい教えをと教えをこた。老父は「村中の人が集まり大声をはりあげて騒ぎなさい。すると害虫は驚き国場川に飛び込んで死ぬだろう」と教えた。

村頭は津嘉山村に帰り不作の稲で大綱を作り、綱曳きをして大騒ぎをした。すると害虫は驚き、みんな国場川に飛び込んで死んだ。村頭は老父は宝であると悟り、早速姥捨山の老父を連れ帰って大事に孝養を尽くし、棄老の悪習を禁じたという。

1982年『南風原町文化財要覧』より抜粋

津嘉山プロフィール

人口(男)…3,876人 世帯数…2,398世帯
(女)…3,980人 面積…168.6ヘクタール
合計…7,856人 2012(平成24)年1月末現在



発行：特定非営利活動法人
南風原平和ガイドの会 2012年3月
住所：沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武257
南風原町立南風原文化センター内
電話/FAX：098-889-2533

平成23年度 沖縄県雇用再生特別事業『シマジマガイド事業』



津嘉山

特定非営利活動法人 南風原平和ガイドの会

だいぐん しれいぶ つかさんごうぐん 第32軍司令部津嘉山壕群

津嘉山の高津嘉山とチカシ毛と呼ばれる小高い丘は、戦時中、第32軍(南西諸島の防備に当たった陸軍部隊の総称)の司令部津嘉山壕群が置かれた場所です。津嘉山壕群は、はじめ、第32軍の司令部として壕の構築がすすめられましたが、1944年末に主な司令部の機能が首里に移ったため、第32軍司令部の中の、兵器・食糧など軍事物資や軍資金を管理するための、後方支援部隊が置かれました。そのため、当時の津嘉山壕群周辺では、通行人に対しても、非常にものものしい警備が敷かれていたようです。

一部分しか知られていませんが、証言などから推測される長さは2,000mと、手掘り壕の中では、沖縄県下最大の全長を持っています。また、壕内の造りも、黄金森の病院壕と比べて、とてもしっかりしていたと証言されています。

津嘉山壕群の周辺には、工事トラックが入れるように拡張された筋道や、軍が使用した井戸なども残っていて、津嘉山有数の戦跡となっています。



高津嘉山を望む

津嘉山壕群の遺構調査は



聞き取り調査を基に作成された略図

きんじょう てつ お 金城 哲夫

多くの子どもたち、大人たちを夢中にさせるヒーロー、『ウルトラマン』。このウルトラマンを創った男のひとり、脚本家・金城哲夫は、津嘉山に生家を持つ、南風原ゆかりの人です。

進学のため上京、このときの学生生活の中で哲夫は、「脚本」という仕事に興味を持ち、また、出生地沖縄を改めて意識し始めたといわれています。1962年に初の自主制作映画『吉屋チルー物語』、その他いくつかの作品の脚本を手がけ、1966年には円谷プロの『ウルトラマン』制作に大きく携わりました。

「ウルトラマンの生みの親」のイメージが強い哲夫ですが、沖縄の歴史・文化を題材にした沖縄芝居『佐敷のあばれん坊』、『泊気質ハーリー異聞』などの脚本を手掛けたことも。1972年には、津嘉山大綱曳きのドキュメント作品の構成も担当しました。

こういった数々の脚本を生み出した哲夫は、1976年、不慮の事故により、わずか37歳の若さで

他界しました。当時、日本中のファンから、そのあまりにも早い死を惜しまれたといえます。

これまでに哲夫にまつわる展示会として、南風原文化センターと津嘉山公民館で「ウルトラマンの金城哲夫資料展」、浦添市美術館で「ウルトラマン伝説展」などが開催されています。最近では2009年、沖縄県立芸術大学にて、「金城哲夫フォーラム」が開かれ、多くの参観者を集めました。これらの盛況ぶりは『ウルトラマン』などの哲夫の脚本作品が、色あせることのない輝きを持っていること、そして「金城哲夫」という人物が、いまだに多くの人々を魅了し続けていることを示しています。



生家にのこる哲夫の書斎

つかざん げいのう
津嘉山の芸能

町内の最も大きな字であることから芸能の豊富さも群を抜いています。中国冊封時代の「御冠船踊（冊封使接待の宴で披露された芸能の総称）」など古い芸能が多く残されています。また、戦前は上演されながら今は消滅してしまった「狂言」や、那覇の芝居座で創作されたものを取り入れた歌劇などが幅広く伝承されてきました。綱曳き踊りなどを含めて約30もの演目があるのです。

こうした芸能は戦前のウフアシビ（大遊び）に馬場（現津嘉山小）に設けられた大舞台で披露されました。

ムラガー（村井戸）の新設や普請の完成を祝って行われるもので、大人も

子どもも村中の人々が棒術も見せながら馬場に向けて道ズネー（パレード）して、夜遅くまで楽しんだそうです。残念ながら1927年を最後に途絶えましたが、1988年には組踊「八重瀬（忠臣身替）」が復活しました。



組踊「八重瀬（忠臣身替）」

そして、地元南風原高校の芸能科に学ぶ子どもたちにより受け継がれようとしています。同じくムラアシビ（村遊び）を通して伝承されてきたものに六尺の檜棒で舞う「舞方棒」があります。舞台や祭事の場において清めの開幕を力強い「左舞方」で疫病・災害・悪霊を祓い、「右舞方」で幕を閉じる一対の踊りです。歴史が古く由来も詳らかではありませんが、無形民俗文化財に数えられています。



津嘉山の舞方棒

つかざん おおつなび
津嘉山の綱曳き

西
のシタク

東
のシタク



綱曳きは14世紀察度王時代に中国から沖縄に伝わったといわれています。日本や中国、韓国にもある伝統行事です。綱曳きは毎年旧6月26日に行われるウガンチナ（御願綱）と、数年ごとに行われるウーナ（大綱）にわかれます。大綱曳きは旧6月18日に戦前は7年ごとに、現在は10年ごとに行われています。

区民は数ヶ月前から準備を始め

当日は男たちは手に六尺棒をもち、女たちは鼓をうちならし、綱曳きの歌を歌い舞います。綱曳き勝負が終わったあとも、深夜まで歌と踊りが続きます。翌日は大綱のカナチ棒を抜き取る儀式が行われます。はずされたティンナ（手綱・枝綱）は鉦鼓隊と子どもたちによって、山垣毛をへて、長堂川に流され大綱曳きは終了となります。

背景写真は1955（昭和30）年に行われた津嘉山大綱曳きです

津嘉山の農業

津嘉山では1976(昭和51)年にかぼちゃの、1994(平成6)年にストレリチアの産地宣言をしました。さとうきびにかわる換金作物として、かぼちゃとストレリチアが津嘉山で生産されています。

津嘉山で生産されるかぼちゃは、2000(平成12)年には沖縄県知事からかぼちゃの拠点産地として認定されました。津嘉山のかぼちゃは、太陽をいっぱい浴びた完熟かぼちゃが特徴です。銘柄は「えびす」といい、甘くてホクホクしています。加えて栄養も豊富で品質もよいため、ほとんどが本土市場へ出荷され、高値で取引されています。

ストレリチアごくらくちょうか(極楽鳥花)は名前の通り、めずらしい鳥に似た花の形と、赤・オレンジの鮮やかな色をしています。花言葉は「輝かしい未来」で、花持ちも良く、お祝いの席に生けるのにふさわしい高貴な花です。

ストレリチアは台風に強く年中収穫でき、またあまり人手を労しないこともあって、23年前から花づくりを始めた金城弘子きんじょうひろこさんは、今年で3年連続金賞を受賞しています。



花と対話しながら育てている金城さん



飛び安里



「飛び安里」あさとしゅうとう(安里周當)は、琉球王朝時代(18世紀後半)に独自の「飛行機」を考案して、世界で初めて大空を飛んだと言われている。

彼はまた、王家の花火師として中国から冊封使欲待の折「松竹梅」という仕掛花火を打ち上げたとも言われます。

「飛び安里」は、首里鳥堀に生まれ、後にここ津嘉山に移り住み、この地高津嘉山や仕立森から、いろいろ工夫を凝らして大空に挑んだのでした。

このように「飛び安里」は今から200年も前に、大空を飛ぶことを夢見た壮大なロマンと冒険の持ち主であり、また歴史を先取りした、世界に誇れる人物というべきです。

彼のその偉業を賛え広く後世に伝えるため、ここに記念碑を建立します。「飛び安里」初飛行顕彰記念碑文から抜粋)



1991(平成3)年8月17日に建立された顕彰碑

津嘉山まーい



1 ビズル(賓頭慮)

十六羅漢の筆頭のなまりで霊石をまつる習俗。祈願は地域によって多様で、津嘉山のビズルは火の神と水の神を祀り、五穀豊穰、雨乞い等を祈願しています。

2 東の御嶽 アガリヌウタキ

14世紀末から15世紀初め頃、長嶺グスクから攻められた仲間グスクの戦死者の遺骨を納めた所で骨神(フニシン)とも呼ばれます。域内には津嘉山ノロのお墓もあります。

3 高津嘉山の御嶽

津嘉山の古ジマの一つ、津嘉山村にゆかりのある御嶽です。2つの門中がクニンドーから高津嘉山へ移住したという、ムラ発祥由来譚が残っている御嶽です。戦前には御嶽の改修を受けました。

4 ノロ殿内屋敷跡

津嘉山の元々の集落は高津嘉山を腰当(クサティ)森としてその南西の斜面に広がり、その斜面の最も高台に位置したノロ殿内と「大屋」と云う旧家があります。

5 殿 トゥン

殿は、「村の草分け家」の跡に設けられる祭祀場のことです。津嘉山には古ジマである津嘉山・仲間・玉那覇の3つの殿があります。

6 高倉

高倉とは穀物を貯蔵するための高床式の建物です。南風原町内に現存するのは、津嘉山に残るこの一つのみとなっています。

7 弾痕のある塀

沖縄戦の時にうちこまれた無数の弾痕が、今もそのまま残っている大変貴重な塀です。

12 山垣橋

この辺りはその昔、津嘉山の仲間按司と豊見城の長嶺按司が戦った古戦場跡だといわれています。また綱曳きの終わったあと、手綱は子供たちによって長堂川に流されました。

11 クボーの御嶽

地域の中では最も古い御嶽で、津嘉山に初めて人が住んだところとも言い伝えられます。周辺からはグスク時代の遺物や人骨が発見されています。

10 イーチの御嶽

津嘉山の古ジマの一つ、仲間村にゆかりのある御嶽です。戦前には御嶽の改修を受けました。近年の発掘調査で生活用品や動物の骨などが出土し、仲間村の存在が裏付けられました。

9 クニンドー遺跡

高津嘉山から南へ連なる丘(クニンドー毛)とその周辺が遺跡です。ここを中心に東から西側に延びる尾根筋一帯に約800~500年前のグスクが築かれていました。周辺の畑地からは土器や中国磁器の破片が沢山採集されています。

8 斗一チキの御嶽

津嘉山の古ジマの一つ、玉那覇村にゆかりのある御嶽です。戦前に御嶽の改修を受けた御嶽でもあり、拝みの対象・皇民化政策の行われた世相を語る遺物と、様々な面を持つ御嶽です。